



# 学校だより

第 148 号 令和元年 6 月 28 日



## 火災避難訓練が行われました



都合により延期されていた火災を想定した避難訓練が、令和元年 6 月 10 日（月）に実施されました。今回の出火元は「厨房」と職員室に出火の第一報が入ります。「緊急連絡です。ただいま厨房より火災が発生!! 近くの教室の児童生徒は、ただちに体育館へ避難してください!!」消防車要請や避難誘導の指示が職員室内に響き渡ります。しばらくすると出火元から「初期消火は困難です!!」と連絡が入りました。全校への避難指示が出されます。

児童生徒の皆さんは、教職員の指示に従って落ち着いて行動してとても立派でした。それぞれが所定の場所で待機して無事体育館へ避難完了。各学部学年から人員報告が入ります。するとなんと「金沢養子」さん（人形）が行方不明との情報が本部に!! 級外の教職員を中心に 1 階と 2 階に手分けをして搜索が開始されます。はたして「金沢養子」さんは見つかるのか?（ちなみに搜索にあたる教職員は「彼女」がどこにいるのか知らされていません）ほどなくして「いました!!」体育館の入口から声がしました。「金沢養子」さんを無事発見して訓練は終了しました。

さて、消防庁が今年の 4 月に出した「平成 30 年（1～12 月）における火災の概要」によると、総出火件数は、37,900 件だそうです。これは、おおよそ 1 日あたり 104 件、14 分に 1 件の火災が発生したことになります。火事や災害など、ないに越したことはありませんが、日ごろから「もしかして」に備える心構えは重要といえるでしょう。避難の時に重要なのは「お・か・し・も」。この機会に再度確認しておきましょう。

おさない かけない しゃべらない もどらない



本校の学校目標の「目指す子ども像」は「自分の持っている力を発揮する子ども」です。避難訓練一つとってみても、児童生徒の皆さんの日ごろの学びや教職員の指導・実践を実際に活かす良い機会であったことを、訓練の様子を見ながら思いました。



シーサイドラインが事故で止まってしまうという波乱の幕開けの 6 月。運行は再開したものの、この原稿を作っている今も、完全な復旧にはいたっていません。この事故への対応に関しまして、保護者の皆様にも色々ご協力をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。それにしても、生活の足が奪われるということが、こんなに影響の大きいものなのだとは痛感するできごとでした。

（教頭 藤田 肇）